

重点目標 (めざす点)		具体的方策	主担当	【評価指標】 ＜成果指標＞＜努力指標＞ ＜満足度指標＞	【評価の根拠】 達成度判断基準	取り組みの成果 及び課題への対策	評価	学校関係者評価者による意見 今後の改善策
1	組織的な 学校運営	①情報共有を充実させ、主任等を中心とした同僚性・専門性を活かし研修・協働の中で、教員の資質能力の向上を図る。	教頭	＜成果指標＞ 主任層のリーダーシップのもと、各分室と学年が縦横の連携を図り、教員が資質能力を高め、組織的な学校づくりを行う。	＜教職員アンケート1＞ 学校経営ビジョンを理解し、必要な情報を共有し連携を図り、一人一人が資質能力を高めて組織としての高まりを実感しているか。	＜教職員アンケート1＞93% 2学期は運動会や文化祭といった行事、LDXの研究発表会等の実施があり、より一層共通理解を図って取り組み機会が多かった。企画段階で確認したことが臨機応変な対応を求められることもあり、急な変更が生じたこともアンケート結果につながっていることを察する。今後も組織的な学校運営を若手や主任層の人材育成という視点を持ちながら、各自が主体的に学校づくりに取り組む組織体制を継続していく。	A	学校は十分に効果的な教育活動や業務改善を行っている。今後もさらに業務の効率化を推進するためには生成AIを補助的に活用してみてもよいのではないだろうか。
		②「気づき」を大切に、常に改革・開発の意識でカリキュラム・マネジメントを充実させ、自身の働き方を見直し、多文化改善の具体的な取り組みと標準化の工夫を図る。	教頭	＜努力指標＞ 見通しを持ち業務の改善・効率化を図り、勤務時間の短縮に努め、月2回定時退校している。	＜教職員アンケート2,3＞ 常に課題意識を持ち、周囲に伝えながらよりよい学校づくりに参画し、見通しを持ち効率的に業務を行い、勤務時間を短縮できたか。	＜教職員アンケート2＞100% ＜教職員アンケート3＞70% 課題意識を持って、学校づくりに参画する意識が中間評価よりも向上した。また、クラウド活用による教材の共有や紙媒体の削減等、業務の改善・効率化を図っている職員が増加している。引き続き、ICTの効果的な運用やカリキュラム・マネジメントの視点から教育活動の見直しを行い、より効果的な教育活動となるよう修正等を行っていく。	C	
		③安全対策や危機管理の意識と指導力を高め、いじめや不登校等に対し組織として計画的に未然防止に取り組むとともに対応を迅速に行う。	生徒指導	＜努力指標＞ 情報交換を密に行い、各主任や担任・学年会が縦横の関係をいじめ・不登校に対し組織的に対応している。	＜教職員アンケート4＞ 情報の共有化が密にできており、いじめ・不登校傾向にある生徒に対し、未然防止や早期の適切な対応ができたか。	＜教職員アンケート4＞100% 定期的な相談の会や生徒指導の会、学年会や職師での情報共有等漏れのないより丁寧な情報共有ができていた。また、対応についても管理職を交えて組織的に行っている。未然防止の視点をより具体的に持つために、職員会議での呼びかけやいじめ対応アドバイザーの派遣を依頼し校内研修会を行った。数値で満足せず、目の前の生徒が安心・安全でより良い学びを得られるよう、工夫や改善を考え続けていく。	A	
2	確かな 学力の 育成（知）	①教科と総合的な学習の時間の学びを往還させ、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業を展開する中で、授業をコーディネートする力を高め、GIGAスクール構想を意識した授業改善を図る。	研究	＜努力指標＞ 各教科および総合的な学習の時間で、ICT機器を活用して生徒の思考を促す工夫を行い、まとめで振り返りを実施させ、主体的・対話的で深い学びを実現する。	＜教職員アンケート5,6,14＞ ＜生徒アンケート16,20,34,35＞ ＜保護者アンケート11＞ 生徒自身に、思考・判断・表現させることを積極的にしているか。GIGAスクール構想を意識した取り組みができてきているか。生徒が学びの高まりを実感しているか。	＜教職員アンケート5＞91%（6）100%（14）93% ＜生徒アンケート16＞94%（20）97%（34）99%（35）92% ＜保護者アンケート11＞91% 目標達成にこだわった授業づくりのために、生徒が思考・判断・表現させることをどの授業においても多く行っている。ICT機器に関しても高い頻度で活用され、それにより生徒も学びの深まりを実感することができているようである。今後は課題研究・また探究的な学びについての校内研究会などを通して、教科と総合的な学習の学びの往還について学び、より一層主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。	A	ICT機器の活用は本当に定着している。また、学力向上のための修正プランが活かされている。先生も生徒もよく頑張っている様子が見える。
		②「授業の辰人スタイル」を身に付け、生徒の自ら学ぶ積極的な態度を育てるとともに、生徒全員が「わかる・できる」授業をめざす。	研究	＜満足度指標＞ 「授業の辰人スタイル」を意図した授業を行い、場面を逃さずに褒め、生徒全員が「わかる・できる」と実感できる授業を創る。	＜教職員アンケート7＞ ＜生徒アンケート15,18＞ 自ら学ぶ積極的な態度が身につき、授業がわかり、できるようになった実感があるか。	＜教職員アンケート7＞97% ＜生徒アンケート15＞96%（18）93% 後半も職員が「授業における辰人スタイル」を意識した授業を行い、話し合う機会や意見を述べる機会を意図的に設定するなど生徒が主体的に学習に取り組む場面を多く設けた。そのため生徒も「わかった、できた」を実感することができたようである。今後も「辰人スタイル」を意識しながらわかる授業づくりを目指す。	A	
		③学びのPDCAを構築し、計画的、組織的に学力の検証と学びの改善を重ね、基礎的知識・技能・表現力等の向上に努めている。	教務	＜成果指標＞ 学力向上ロードマップを活用し、基礎的知識・技能や思考力・判断力・表現力等の向上に努めている。	＜教職員アンケート8＞ PDCAサイクルを実施し、学力の検証・改善がなされ、様々な面で学力の向上に表れているか。	＜教職員アンケート8＞96% アンケートの結果から、8月に修正した学力向上プランに従って、各教科で取り組みと検証を行うことができたことがわかる。また、12月に行われた県評価問題や市学力調査の結果も参考に、各教科における課題を資質・能力で捉え、3学期の取り組みを絞り込み、引き続きPDCAサイクルをまわしていく。	A	
3	豊かな 心の 育成（徳）	①集団の中で自分の役割を果たすことを通して自己肯定感を高められるよう、認め合える温かな学校づくりをめざす。	生徒指導	＜満足度指標＞ 生徒指導の4つの視点を意識し、学習集団、生活集団としての機能を高める学校づくりに努めている。	＜教職員アンケート10＞ ＜生徒アンケート29＞ Q－Uアンケート結果や生徒面談を活かし、親和的な学校づくりに努めているか。生徒の自己肯定感が高まっているか。	＜教職員アンケート10＞100% ＜生徒アンケート29＞92% 教職員においては、各学年、各学級ともアンケートや面談をもとに親和的な学年・学級づくりや、各個人に対しても非常に丁寧に指導にあたっている。生徒においても、各種行事における役割や、クラス内の一人一役など役割を与えらる場面が多くあり、そこで自分の役割を果たそうと動ける状況を今後も設定し、自己肯定感が高められる場を意図的に作っていく。	A	先生方が生徒に寄り添って指導されていることがよくわかる。生徒会や委員会活動が活発でとても良い。学級活動をさらに充実させ、学級会、生徒会活動のつながりをより強化していくとともに全体が盛り上がりと思う。
		②生徒会活動やボランティア活動を通して自治・自浄の能力を高めるとともに、他のために役立つ自己を実感させる。	生徒指導	＜満足度指標＞ 生徒会活動やボランティア活動に積極的に取り組み、発達支援の生徒指導を行っている。	＜教職員アンケート9＞ ＜生徒アンケート26＞ 生徒会活動やボランティア活動を推進し、学校生活を充実発達支援の生徒指導を行っているか。生徒の自己有用感が高まっているか。	＜教職員アンケート9＞92% ＜生徒アンケート26＞80% 行事では生徒が前に出る機会が増えている。生徒主体で、委員会単位で生徒から発信するものも以前より増えている。生徒会の提案から各委員会が動くこの形態を継続していく。また、ベクトルのキャッチ回収やボランティアチャレンジにも多くの協力を得ることができたので、そのような呼びかけも続けていく。	B	
4	健やかな 心身の 育成（体）	①生徒の不安や悩みを迅速に把握し、解消できるように相談体制や居場所を充実させ、困り感のある生徒には個に応じた配慮を工夫する。	生徒指導	＜満足度指標＞ 教育相談体制を充実させ、生徒の実態を把握・共有し、問題の解消に努めている。	＜保護者アンケート5＞ 学校は、不安を持っている生徒や困っている生徒の実態を把握し、問題の解消に努めているか。	＜保護者アンケート5＞85% 前期に比べ、5ポイント上昇した。教育相談の会での情報交換や支援体制の確認、相談室の活用による居場所の確保など対応はできている。また、生徒との個別の面談により、不安や困り感を吸い上げる体制を続けていく。スクールカウンセラーや外部専門機関の紹介など、困り感のある生徒に応じた対応を行う。	B	保護者も学校を頼りにしていることがわかる。家庭生活については家庭の責任であり、指導は難しいと思うが、生徒たちから主体的に行動する取組があるとよいのではないだろうか。
		②家庭と連携してインターネットのルールを徹底するとともに、起きる時間、寝る時間、学習時間を確保するなど望ましい生活習慣の確立を図る。	生徒指導	＜満足度指標＞ 家庭と学校の連携力が高まり、家庭のネットのルールが守られ、良い成果が出てきている。	＜保護者アンケート6,8,9＞ ネットトラブルやネット依存防止のために、フールタリングやルール作りを行っているか。 ＜生徒アンケート22＞ ＜教職員アンケート12＞ 時間の3点確保を行い、望ましい生活習慣が確立できたか。	＜保護者アンケート6＞81%（8）83%（9）82% ＜生徒アンケート22＞75% ＜教職員アンケート12＞89% ネットとの向き合い方については、学校全体や各学年等で生徒の現状や行事等の機会を想定し定期的に行っている。ネットはもちろん、より良い生活リズムのために時間の見直しを持たせられるよう、家庭への呼びかけも含めて、学校での取り組みは引き続き行っていく。また、小中連携の視点も加えていく。 前期のアンケート結果と比べるとほぼほぼ横ばいである。ここに数値の変化が生み出せるような取り組みを考えていきたい。	C	
		③体育的活動・部活動を中心に、仲間と協力しながら、体力を高めるとともに、自分で設定した目標に向かって努力する。	保健文化	＜成果指標＞ 体育的活動・部活動を通して、親和的な人間関係を育みながら体力を向上させ、自分なりに設定した目標に向かって努力している。	＜教職員アンケート11＞ 生徒が目標達成に向けて努力しようとする姿は向上しているか。 ＜生徒アンケート33＞ 部活動は楽しく充実しているか。	＜教職員アンケート11＞92% ＜生徒アンケート33＞94% 生徒たちは個々に体力の向上を目指し、意欲的に体育的活動や部活動に参加しているものと思われる。引き続き、感染症や体調に留意しながら運動できる環境を整えていく必要がある。	A	
5	家庭や 地域との 連携	①地域の特色を積極的に学習に活かす中で地域の未来や、社会貢献、自分の生き方を考える等、教育活動の更なる充実を図る。	教務	＜努力指標＞ 地域のヒト・モノ・コトを活用し、地域や自分の在り方を考え、社会貢献できる生徒づくりに努めている。	＜教職員アンケート13＞ 教科横断的な視点を持ち、地域リソースを生かした教育活動が行えたか。 ＜生徒アンケート13＞ 地域とのつながりや考え、地域の方や先生から学ぶことができたか。	＜教職員アンケート13＞100% ＜生徒アンケート13＞98% 総合的な学習の課題研究において、保護者にアンケートをとった動物園や九谷美術館を訪ねてインタビューを行ったりして、地域リソースを生かして調査活動を進めることができた。また、ゼミ内発表、学年発表、全校発表を通して、生徒たちは地域を見つめ、地域の未来を考えることができた。	A	今後も学校運営協議会の活動を保護者の皆さんに伝えていき、学校と地域をつなぎ、共に連携して支援していきたいと思う。学校のために手伝えたいことがあれば遠慮なく伝えてほしい。
		②学校運営協議会と連携し、学校・家庭・地域の協力体制を構築し、よりよい学校づくりを推進する。	教頭	＜満足度指標＞ 学校と家庭、地域の連携力が高まり、良い成果が出てきている。	＜保護者アンケート7,10＞ 学校と家庭、地域が連携して子どもを育てていると感じているか。	＜保護者アンケート7＞93% ＜保護者アンケート10＞83% 2学期以降も学校HPの充実にも、閲覧数も上昇している。「コドモン」の使用により、各種便りの配信や保護者の意見等の把握など双方に活用することができている。また、学校運営協議会を中心に立志の集いや職業講話の支援をはじめ、教科における授業支援等、引き続き、多数の地域の方に協力いただき、活動することができた。今後も学校と家庭、地域が連携して子どもたちの成長を支援していく。	B	

◆【評価の根拠】は生徒・保護者・教職員アンケートによって、＜肯定的な意見がA：90%、B：80%、C：70%、D：70%未満＞として評価する。

◆評価は＜1：そう思う、2：どちらかと言えばそう思う、3：どちらかと言えばそう思わない、4：そう思わない＞の4つで選択する。

◆各項目で評価をする際に、2つ以上のアンケートを必要とする場合は、上記の意見で低い方の結果を評価する。